

府内城 ウォーキング マップ

令和5年3月



にしのみるすみやくら りょうがわ しらかべ 西之丸角櫓の両側の白壁 [県指定史跡]

江戸時代の終わり頃、南西角櫓の両側の塀は板塀でした。写真の丸印がその場所で、石垣に平らな石が並び、塀が建てやすくなっています。



しゅうもんやくら 宗門櫓 [県指定史跡]

江戸時代の城郭建築が残る県内で数少ない一つです。安政大地震(1854年)で壊れ、幕府の許可を得て、1859(安政6)年に再建されたものです。



おびくるわ 帯曲輪 [市指定史跡]



大分城址公園の桜並木のある場所は、江戸時代に大分川の河口につくられた人工の土手です。水城を象徴する施設で、土手の上には塀が建てられていました。

ろうかばし 廊下橋 [平成8年に復元]

江戸時代の軍学者が、理想の橋の形としたものです。軍学書には「内、必ず引橋」とあり、床をはずして敵の侵入を防ぐことができました。



ひとじちやくら 人質櫓 [表紙写真] [県指定史跡]

府内城に残る、もう一つの江戸時代の櫓です。本丸の北東部、人質場と呼ばれた曲輪に位置し、1861(文久元)年に再建されたものです。

江戸時代の人質櫓と天守台

水に浮かぶようにつくられた、安土・桃山時代のお城で、1597(慶長2)年に福原直高が築城しました。

江戸時代になるとすぐ竹中重利が増改築を行い、1602(慶長7)年に完成しています。

熊本(石工)や大坂(大工)、京都伏見(瓦師)から職人を招き、当時の最新技術で築かれた府内城の見どころを紹介します。

宮崎銀行

大分合同新聞
ぶんぶん広場

大手公園

県庁舎新館